

Chara
04

CHARACTER

BARATEE's Person

人の心を動かすのはやっぱり“人”。バラッティでは、「この人に会えば、元気になるんだよなあ。」と編集部が思える人をご紹介。皆さまに感動や活力を与えてくれるエネルギーを持った人は、意外に身近にいるのかも。



Ippeï Tamura
イベントター。
音楽イベント「Free Shelter」共同代表。

Tetsu Morioka
デザイナー 兼職人。
株式会社Zappa代表兼有限会社カーボス工作所役員。

Yusuke Katsumata
建築家。



ENPITUとは…
富士市吉原商店街でのイベント「商店街占拠」をきっかけに集まったクリエイター集団。会社・団体ではなく個人が交差する共同体なのだ。



ENPITU.CO(マルイチビル)

富士市吉原2丁目147-2
<http://enpitu.co/>

ENPITU.CO/エンピツ

三人の若者が眠れる廃ビルに息を吹き込む。

商店街の中心にそのビルはあった。所々コンクリートが剥がれ落ち、鉄筋がむき出し、誰も寄りつかない朽ちた建物だった。その名は『丸一ビル』。築50年余りの鉄筋コンクリート4階建て。かつて吉原の地は、静岡のガラパゴスと呼ばれるように独自の発展を遂げ、丸一ビルは繁栄の象徴として端然とそびえ立っていた。やがて月日はたち、丸一ビルのテナントは徐々に消え、最後のテナントも5年前に撤退。そこからビルは休眠状態で日々を送ることに。

それが今年、ある三人の若者達の手によって

丸一ビルは見事に息を吹き返そうとしている。“MARUICHI BLDG.1962”再生プロジェクトがスタートしたのだ。シェアオフィス・ギャラリー・アトリエ・コミュニティスペース・カフェレストラン等、人が集まる場所、が生まれようとしている。「あそこに行けば面白いヤツラがいる、あそこに行けば何か新しいアイデアが生まれるんじゃないか、そんな場所になれたらいい」と語るのはイベントプロデューサーの田村氏。ただ箱を用意するのではなく、その先さらにその先の展開を期待しながら物語を作っているよう

だ。三人がコンセプトに謳う、街に溢れる「もったいない」を能動的な想像力と行動力で変化させる、ということは、単なる廃ビルのリノベーション計画ではなく、街に住む人達の働き方そのものに対して一石を投じるかもしれない。

設計を行う勝亦氏は、「このビルが商店街のエントランスとなって街全体に波及していったらいい」と語る。街には「もったいない」が山ほど眠っている。彼らの描く物語は、まだスタートラインに片足を踏み入れただけなのかもしれない。